

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2396300010		
法人名	都メディカル有限会社		
事業所名	グループホーム設楽名倉の家(1号館)		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町東納庫字古松4番地		
自己評価作成日	令和2年9月11日	評価結果市町村受理日	令和2年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2396300010-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長橋区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年11月1日開設。2ユニット、定員18名。山間部に位置し、標高が高く四季折々の山や田園風景のきれいな空気の良い所です。近くの道の駅付近には、桜の名所があり毎年大勢の方が観光に訪れています。また近くに紅葉の名所の公園もあり、施設でも毎年見学ドライブに出掛けています。田舎ならではの良さは、地元の方、利用者様のご家族、職員などが新鮮な季節の野菜を届けてくれ、季節を感じられる食事楽しみの一つでもあります。ボランティアの方の訪問もあり、それも楽しみでもあります。職員の年齢は30代から70代と幅が広く、家庭的な雰囲気の中、いつもどこからか笑い声が聞こえています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の温かな人間関係がそのままの事業所で、困難ケースであっても「来るもの拒まず」対応を旨としています。また、大葉味噌や五平餅などの郷土料理が日常的に提供され、お盆には「精霊馬(しょうりょううま)」を茄子やキュウリでつくったりと、昔ながらの暮らしを大切にしています。リンゴをむいて一緒に食べたり、ラジオ体操にも加わる家族や、趣味の詩吟仲間が訪れていた人もいましたが現在はお互い自粛しています。そんな中、家族が持ち込んでくださった介護ロボット「ごまちゃん」の躍進は目覚ましく、薬も減って会話もできるようになったり、花が咲いたような笑顔を見せる日もあり、職員以上の働きぶりに皆が感嘆しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲義示するとともに、常に実践に繋げるよう心がけている。地域に貢献できる施設でありたいと思っている。	理念は職員に自然に浸透しており、例えば「自殺」「盗癖」「エスケープ」の症状をもつ困難ケースであっても、プラス思考で「来るもの拒まず」対応を旨としています。嫌な顔一つせず、引き受ける職員には管理者も頭が下がる思いでいます。	パンフレット、運営推進会議の議事録等、外部者の目に触れるものへ理念を刷り込むことも一考ください。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の入所者の方が増えてきて、施設内でも顔なじみもあり、面会に来所される方も知り合いを回っている事もある。地元のボランティアの来所や、近所の理髪店による散髪もあり、会話を楽しんでいる。ただ今はコロナの影響で交流ができていない。	茄子、筍、じゃがいも、大根、いんげん、白菜、栗 etc.と、まるで道の駅の販売所のように地域の農家から野菜のおすそ分けがあり、職員がお茶菓子とお茶を農作業の合間に届け、感謝を伝えています。また、コロナ対応として地域の関谷酒造からアルコールの寄贈を受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元や近郊地域からの入所相談が増えてきている。入所者のご家族や、退所者のご家族より施設の様子を聞いて、申し込みされる方もいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に行っている。施設での取り組みや、利用者様の様子、施設の問題点などの報告。課題等について意見を頂き活かしている。	本年度の運営推進会議は、コロナ禍で4月を中止しています。2ヶ月分の活動内容を管理者がまとめたうえで、町役場、地域包括支援センター、民生委員 家族代表、社協などのメンバーに郵送しています。6月には再開、8月も通常開催が来ています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設に対する協力を設案町より非常に頂いており、今回のコロナウイルス感染対策についても、かなり安心できる部分があった。日常的に施設の事を気にかけてくださる姿勢にとても感謝している。	町民課長は欠かさず運営推進会議に出席くださり、話し合いの中心となって頼りとなるとともに、何か疑義が生じれば率先して調べてパソコンメールでもフォローくださり、陰ひなさない関わりで「感謝しかない」と、厚い信頼を寄せています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修の中でも周知している。会議でも再確認しているが、気になる点があるときはその都度注意している。玄関の施錠は閉めていないし、換気のため開けているが、利用者様の帰宅願望や不穏時、エスケープの恐れがある時は、玄関の施錠をする事がある。	身体的拘束適正化検討委員会の議事録は累計で10枚となり、確実に3ヶ月毎の協議の場を持っています。よかれと思ってやっていることが該当するケースもあり、そんなときは管理者がその場で是正し、職員が集まる場で「気づきとしてほしい」として周知しています。	新任者に「身体拘束への手引き」を個人毎に渡して理解を求め、既存の職員も年2回の研修を受けていますが、指針と議事録とともに1つのファイルに収め、適正実施を内外に示せるように配することを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて研修あり。虐待防止については職員同士でも注意ができる職場作りとし、気になる事があった時は遠慮せず言える職員もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様2名、成年後見人制度にて後見人をお願いしている。身寄りのない方やご家族に事情のある方にとって、施設としてはありがたく思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい説明に心掛けている。疑問点や不安なことがあれば、納得いただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは日常の会話の中で、ご家族様とは面会時などに、意見を頂く事もある。	家族には毎月の様子を便りとして届けてきましたが、これまでのように気軽に面会ができなくなってきたことから、利用者に絵を描いてもらい、その作品と一緒に撮影、写真を家族に送るということも始めています。家族アンケートも異口同音に、明るく丁寧な対応が評価されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンス、各号館よりあがってきた意見は検討するようにしている。	定例の職員会議は現在はなく、ユニット単位で計画作成担当者が中心となり、一人ひとりのカンファレンス(1名につき3ヶ月毎)を開催しています。報連相をリーダーがパイプ役の頃もありましたが、現在は管理者に一元化され、「褒める」「叱る」のメリハリもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員、パート、アルバイトそれぞれに資格手当や、達成手当などがつき、給与水準も徐々にあがってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲のある職員は自主的に受けている職員もいる。シフトが可能な限り、全面的に協力している。資格取得の向上の声かけは常にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元や近隣の市町村の勉強会には、積極的に参加している。交流や情報交換の場と考えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族やケアマネより得た情報により、安心して生活して頂けるよう努めている。 入所後 本人よりの聞き取りや、日常の様子から安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで他所では話せなかった困っていた事や不安や心配事など、ご家族の思いを傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応は、まず今何が必要かを見極め、その後サービスの見直しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできる事や、得意とする事、やりたい事、好きな事を生活の中で取り入れ、一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様それぞれに、ご家族との絆は違う。その方その家族の形に添った支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ができる訳ではないが、かかりつけ医、美容院、歯科医の継続。詩吟仲間との交流など、出来る限り支援している。ただ今はコロナの影響で交流は難しい。	桃やリンゴをむいて一緒に食べたり、ラジオ体操にも加わる家族や、趣味の詩吟仲間数名が訪れていた人もいましたが現在はお互い自粛しています。そんな介護ロボット「ごまちゃん」の躍進は目覚ましく、薬も減って、会話もできるようになった人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置は職員で話し合い決めている。問題が起きたときは迅速に対応し、利用者様が孤立しないように考えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動された方、病院に入院された方など、その後をお尋ねしたり、訪問する事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。利用者様にとって生活の場であり、家である。安心して暮らせるよう可能な限り努めている。無理強いをする事は極力しないようにしている。	入居の折にフェイスシートを整え、カンファレンスの度に赤字で添削し、介護計画書を作りなおすのと同時に更新しています。「こうしたらしゃべったよ」「歌をうたったら機嫌がよくなった」「次の日はだめだった」と悲喜こもごもを当たり前と受けとめ介護詳細に残し、共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報や、ご家族よりお聞きした話から、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。ケアプランにも反映されている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護の中や、申し送りノート、介護詳細記録、モニタリングにて職員が同じ方向で介護をするようにしている。	介護計画書の2表の担当者欄には定期受診の付き添いをおこなう家族が入っていて、「チームで取組んでいる」ことが覗えます。介護支援支援専門員(兼1ユニットの計画作成担当者))は常駐者(月3~4回)ではないため、職員が日々の変化や意見をしたためています。	家族以外のサービスやボランティアなどが担当者欄に載るようなイメージで介護計画書を作成できると、なお良いと思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。申し送りノートを読んでから業務に入る。より詳しく記入されている、各自の詳細記録もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度その都度柔軟にできる範囲で対応している。判断に迷うような場合は、地域アドバイザーに相談している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の道の駅にある、五平餅を手掛けた方が入所されており、また地元の入所者様たちにとっても、この地域ならではの慣れ親しんだ味である。時々購入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。契約医は2件ある。それにこだわらず、ご家族の協力も得ながら、入居前のかかりつけ医の継続としている。	協力医の訪問診療が月2回あり、8名が受診しています。もう1つの協力医は通院が必要で3名が職員の支援を受けています。7名が在宅の頃からのかかりつけ医を継続しており、医療を本人本位に選択してもらっており、家族が支援する場合は必要な資料提供もおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。毎週水曜日に看護師が来所している。お互い情報交換をし助言や指導がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	全ての病院とまではいかないが、近隣の病院の相談員など関係者とは連携が取れていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご家族へは、報告相談をしている。施設での生活が無理と判断されるような場合は、グループ内での移動や、特養への申し込みなど、説明している。	状況によって老衰に至った場合のお見送りをおこなうことはありますが、協力医の医療支援は無理として「看取りという言葉は出さない」ようにしています。家族とは合意形成できており、入居にあたり特養も併せて申し込み、重度化したら移設を予定している家族もいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はしていない。日常業務での経験や、職員から職員への指導などで身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練(通報・避難・消化等)や、夜間想定訓練は行っている。地域との協力体制は難しい。夜間帯の避難について、設楽町が心配し会議を設けてくれ、地元消防団が視察に来る事になっている。	年2回の防災訓練では、非難と通報を主体に昼間と夜間それぞれの設定でおこない、新人は優先的にシフトを調整して体験につなげています。運営推進会議の場で「夜間、職員2名で心細い」と話したところ、設楽町役場で事業所支援について協議くださったこともあります。	171(非常時伝言ダイヤル)を家族と一緒にこない、危機感を共有していくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様それぞれに生き立ちや、生活歴、職業の違いがある。理解したうえで人格の尊重やプライバシーを損ねないよう気を付けている。	困難ケースとして入居した人は、現在では職員が自分の味方だと受けとめたのか、穏やかになっており、家族からも感謝されています。管理者も職員の柔軟な対応に心から敬意をはらっていて、職員にお土産を届けたりと、事業所内上下なく尊重しあう風土が培われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心掛けている。自己決定の働きかけは常にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てを希望に沿って行う事は無理である。ある程度の決まりの中で、希望に添えることは努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	心掛けている。清潔で季節にあった服装や、おしゃれな人にはおしゃれの楽しみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けは毎回行って頂いている。皆さん進んで手伝って下さり日課となっている。食事はメニューがなく職員がそれぞれ考え作り、その時期ならではのメニューや行事食など喜んで頂いている。	最高齢の75歳の職員は料理上手で、特に五平餅などの郷土料理は利用者に人気です。食器拭きが職人技のように秀でている利用者は、「もってきてえ～」と毎食後リクエストの声があがり、時には職員がもう一度食器濡らして本人の有用感を支えています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様それぞれの食事量や食形態があり対応している。変化があった時も柔軟に対応している。食事がとてもゆっくりな方がいるので、その方は皆さんより先に提供するなど臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。毎食後の口腔ケアが流れとなっており、自主的に洗面台へ行って下さる方もいる。ご自分でできない方は職員が行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基にトイレ誘導をしている利用者様もいる。パットの使用の削減や清潔保持にも繋がっている。	平均介護度は2.6とデイサービス並みですが、1号館と2号館では身体介護に差がでています。家族の経済的負担も考慮しており、パット交換が頻回な例では、医師の指導も仰ぎましたが改善されず、家族には「チャレンジしましたが…」と経緯と結果を報告しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を基に排便の間隔の空いた時は、十分な水分やヨーグルト、時には薬を用いる事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせる事は困難である。ADLの低下に伴い時間のかかる方もいる。のんびりゆったりと入って頂けるようにしている。	早番が外、日勤が中対応の2名体制がルーティーン化されています。入浴では「身体状態のチェック」「洗身」「下着の交換」がメインですが、「人数を少なく、ゆったり入ってもらう」ことを命題とし、菖蒲を頭に巻いたり、柚子を浮かべる日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の年齢や体調に合わせて休息をして頂いている。安眠の為の居室の温度や、寝具も利用者様それぞれに対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握はしている。服薬内容の変更時、追加時など詳細記録への記入、症状の変化の記入確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり楽しみや趣味が違うので、その方にあった張り合いを見つけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在新型コロナウイルスの影響にて、外出は病院受診程度。	以前は馴染みの美容院や、娘さんと喫茶探訪や日帰り温泉、職員がピストンで桜と紅葉狩り等の外出支援がありましたが、現在はコロナ禍で儘なりません。散歩は変わりなくおこなっており、通院介助の家族には「帰りにどこも寄らないでください」とお願いしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設で預かっており、利用者様が個人で使用する事はない。人によっては買い物支援をする場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については事情がない限りしていない。手紙のやり取りは行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる飾りつけや、その時期ならではの花、珍しい花などを職員が持ってきてくれるので常に飾っている。その花をととも綺麗にスケッチしてくれる利用者様もいる。	猫の餌の袋やチョコの包み紙を利用して、「今年は花火を見れないから」とオブジェづくりに尽力したり、自宅の庭から生花を持ち込んだりと、職員がコロナを払しょくしようと頑張っています。また消毒にも余念なく、これまで1回だった手すり拭きも2回と増えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へ自由に行き来している方や、気の合った達との会話や趣味、ソファでくつろぐなど思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地と安全面から、入居時にご家族や本人と相談している。危険と判断したときは、持ち帰っていただいた事もあった。	100歳の女性利用者は、「おいくつになられましたか」と尋ねると「94歳」とサバ読みするほど、気持ちだけでも実際も若く、メガネなしで新聞を読み、日記も毎日つけています。またタタミの生活様式がしみ込んでいることから、膝を保護するために組み合わせマットを導入しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮されている。車椅子の方も届くドアノブの高さである。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2396300010		
法人名	都メディカル株式会社		
事業所名	グループホーム設楽名倉の家(2号館)		
所在地	愛知県北設楽郡設楽町東納庫字古松4番地		
自己評価作成日	令和2年9月11日	評価結果市町村受理日	令和2年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2396300010-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長瀬区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年11月1日開設。2ユニット、定員18名。山間部に位置し、標高が高く四季折々の山や田園風景のきれいな空気の良い所です。近くの道の駅付近には、桜の名所があり毎年大勢の方が観光に訪れています。また近くに紅葉の名所の公園もあり、施設でも毎年見学ドライブに出掛けています。田舎ならではの良さは、地元の方、利用者様のご家族、職員などが新鮮な季節の野菜を届けてくれ、季節を感じられる食事楽しみの一つでもあります。ボランティアの方の訪問もあり、それも楽しみでもあります。職員の年齢は30代から70代と幅が広く、家庭的な雰囲気の中、いつもどこからか笑い声が聞こえています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の温かな人間関係がそのままの事業所で、困難ケースであっても「来るもの拒まず」対応を旨としています。また、大葉味噌や五平餅などの郷土料理が日常的に提供され、お盆には「精霊馬(しょうりょうま)」を茄子やキュウリでつくったりと、昔ながらの暮らしを大切にしています。リンゴをむいて一緒に食べたり、ラジオ体操にも加わる家族や、趣味の詩吟仲間が訪れていた人もいましたが現在はお互い自粛しています。そんな中、家族が持ち込んでくださった介護ロボット「ごまちゃん」の躍進は目覚ましく、薬も減って会話もできるようになったり、花が咲いたような笑顔を見せる日もあり、職員以上の働きぶりに皆が感嘆しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲義示するとともに、常に実践に繋げるよう心がけている。地域に貢献できる施設でありたいと思っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地元の入所者の方が増えてきて、施設内でも顔なじみもあり、面会に来所される方も知り合いを回っている事もある。地元のボランティアの来所や、近所の理髪店による散髪もあり、会話を楽しんでいる。ただ今はコロナの影響で交流ができていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元や近郊地域からの入所相談が増えてきている。入所者のご家族や、退所者のご家族より施設の様子を聞いて、申し込みされる方もいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的に行っている。施設での取り組みや、利用者様の様子、施設の問題点などの報告。課題等について意見を頂き活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設に対する協力を設楽町より非常に頂いており、今回のコロナウイルス感染対策についても、かなり安心できる部分があった。日常的に施設の事を気にかけてくださる姿勢にとっても感謝している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修の中でも周知している。会議でも再確認しているが、気になる点があるときはその都度注意している。玄関の施錠は閉めていないし、換気のため開けているが、利用者様の帰宅願望や不穏時、エスケープの恐れがある時は、玄関の施錠をする事がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて研修あり。 虐待防止については職員同士でも注意ができる職場作りとし、気になる事があった時は遠慮せず言える職員もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様2名、成年後見人制度にて後見人をお願いしている。身寄りのない方のご家族に事情のある方にとって、施設としてはありがたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい説明に心掛けている。疑問点や不安なことがあれば、納得いただけるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは日常の会話の中で、ご家族様とは面会時などに、意見を頂く事もある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンス、各号館よりあがってきた意見は検討するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員、パート、アルバイトそれぞれに資格手当や、達成手当などがつき、給与水準も徐々にあがってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲のある職員は自主的に受けている職員もいる。シフトが可能な限り、全面的に協力している。資格取得の向上の声かけは常にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元や近隣の市町村の勉強会には、積極的に参加している。交流や情報交換の場と考えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族やケアマネより得た情報により、安心して生活して頂けるよう努めている。 入所後 本人よりの聞き取りや、日常の様子から安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで他所では話せなかった困っていた事や不安や心配事など、ご家族の思いを傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応は、まず今何が必要かを見極め、その後サービスの見直しをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分の意志や、やりたいやりにくいが、はっきりしている方が多いので、それぞれの役割のもと、良い関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様それぞれに、ご家族との絆は違う。その方その家族の形に添った支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ができる訳ではないが、かかりつけ医、美容院、歯科医の継続。詩吟仲間との交流など、出来る限り支援している。ただ今はコロナの影響で交流は難しい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置にはとても気を遣っている。仲の良い人同士や、会話が弾むなど考えている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動された方、病院に入院された方など、その後をお尋ねしたり、訪問する事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。利用者様にとって生活の場であり、家である。安心して暮らせるよう可能な限り努めている。無理強いをする事は極力しないようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報や、ご家族よりお聞きした話から、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。ケアプランにも反映されている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護の中や、申し送りノート、介護詳細記録、モニタリングにて職員が同じ方向で介護をするようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。申し送りノートを読んだから業務に入る。より詳しく記入されている、各自の詳細記録もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度その都度柔軟にできる範囲で対応している。判断に迷うような場合は、地域アドバイザーに相談している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特になし。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。契約医は2件ある。それにこだわらず、ご家族の協力も得ながら、入居前のかかりつけ医の継続としている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。毎週水曜日に看護師が来所している。お互い情報交換をし助言や指導がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	全ての病院とまではいかないが、近隣の病院の相談員など関係者とは連携が取れていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご家族へは、報告相談をしている。施設での生活が無理と判断されるような場合は、グループ内での移動や、特養への申し込みなど、説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はしていない。日常業務での経験や、職員から職員への指導などで身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練(通報・避難・消化等)や、夜間想定訓練は行っている。地域との協力体制は難しい。夜間帯の避難について、設楽町が心配し会議を設けてくれ、地元消防団が視察に来る事になっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様それぞれに生い立ちや、生活歴、職業の違いがある。理解したうえで人格の尊重やプライバシーを損ねないよう気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心掛けている。自己決定の働きかけは常にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てを希望に沿って行う事は無理である。ある程度の決まりの中で、希望に添えることは努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	心掛けている。清潔で季節にあった服装や、おしゃれな人にはおしゃれの楽しみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けは毎回行って頂いている。皆さん進んで手伝って下さり日課となっている。食事はメニューがなく職員がそれぞれ考え作り、その時期ならではのメニューや行事食など喜んで頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様それぞれの食事量や食形態があり対応している。変化があった時も柔軟に対応している。食事がとてもゆっくりな方がいるので、その方は皆さんより先に提供するなど臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。毎食後の口腔ケアが流れとなっており、自主的に洗面台へ行って下さる方もいる。ご自分でできない方は職員が行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基にトイレ誘導をしている利用者様もいる。パットの使用の削減や清潔保持にも繋がっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を基に排便の間隔の空いた時は、十分な水分やヨーグルト、時には薬を用いる事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせる事は困難である。ADLの低下に伴い時間のかかる方もいる。のんびりゆったりと入って頂けるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の年齢や体調に合わせて休息をして頂いている。安眠の為の居室の温度や、寝具も利用者様それぞれに対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握はしている。服薬内容の変更時、追加時など詳細記録への記入、症状の変化の記入確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり楽しみや趣味が違うので、その方にあった張り合いを見つけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在新型コロナウイルスの影響にて、外出は病院受診程度。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは施設で預かっており、利用者様が個人で使用する事はない。人によっては買い物支援をする場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については事情がない限りしていない。手紙のやり取りは行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる飾りつけや、その時期ならではの花、珍しい花などを職員が持ってきてくれるので常に飾っている。その花をとでも綺麗にスケッチしてくれる利用者様もいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室へ自由に行き来している方や、気の合った達との会話や趣味、ソファでくつろぐなど思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地と安全面から、入居時にご家族や本人と相談している。危険と判断したときは、持ち帰っていただいた事もあった。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮されている。車椅子の方も届くドアノブの高さである。		